

「楽しく」「続ける」「つながる」「情報共有」

コロナ禍の中で県労連女性部第27回定期大会を開催

けんけんぱ

2020年度第1号
2021年2月13日
(土)

宮城県労働組合総連合女性部

発行責任者 永田 淳子

〒9800022

仙台市青葉区五橋一丁目5番13号

TEL 022-211-7002

宮城県労連女性部第27回定期大会を、2020年11月29日、仙台市戦災復興記念館において開催しました。

コロナ対策として、一人1テーブルとなる広さの会場を利用し、来賓は「なし」としました。

8単組・単産から委任状を含めて22名の代議員と宮教組からオブザーバーの出席がありました。

討議では、「女性センターの活動は『明るく楽しく』、コロナでほとんど活動ができなかった、あきらめ、しかならないでは一歩も進めない、要求し続ける・声を上げ続けることが大切」(宮城一般)、「コロナで病院は数千万円から億単位の赤字、医療従事者はボーナスカット等によりモチベーションが上がらない、燃え尽き症候群で自死も出ている、

クラスターを発生させてはならない、自分が感染源になつてはいけないという精神的ストレスもある、『いのち署名』に協力を」(医労連)、「コロナで非正規が一番先に切られている、女性と高齢者の相談が多い、民青が実施した学生への食糧支援に協力した」(青年ユニオン)、「国土地理院では、災害伝承碑等のネガティブ情報を地図に載せるようにしている」(国公)、「2021年4月から不妊治療休暇が取れるようになった。署名運動によって『支援学級の設置基準』を作らせた」(高教組)、「非正規雇止め問題への支援に感謝、組合への要望は多いが、加入して自分でやるということになつていない、県労連女性部の議案書が気に入った」(組合のつながり、情

報共有が力になつている」(東北大)、「コロナで活動の7分である『楽しみ』ができなくなつたが、6月から会議を再開、裁判では、福島案件で元年金局長の香取氏を証人として呼べるかもしれない」(年金者)、「PCR検査の予防的な実施を求めて2市3町に交渉、行政は上意下達、下からどうやって上げていくか」(自治体一般)、「プリント漬けで子どもたちが勉強嫌いになつている、宮城県は不登校ワースト1、女性県議と懇談し、コロナ禍の状況を聞いてもらつた、『いきとどいた教育を求める署名』に協力を」

「平和を願う多くの人の力で核兵器禁止条約が1月22日に発効される、日本政府に批准させる運動が重要」(宮教組)、「ハローワークの窓口はほとんどが非正規で、3年での雇止めも行われている、『小さな政府』は非正規が担っている」(国公)など、9単組・単産11名から発言がありました。

まとめの報告の後、新役員を選出して閉会となりました。

(新役員体制は2面に掲載)



各職場からの発言で有意義な大会に

女性部の運動が労働運動を広げていく

全労連女性部2021年国民春闘討論集会・第32回女性部委員会



オンライン併用で行われた春闘討論集会の様子

2020年12月12日、全労連会館と各地方組織等をオンラインで結んで、2021年全労連女性部国民春闘討論集会・第32回女性部委員会が開催されました。

午前中には、東京中央法律事務所の青龍美和子弁護士を講師に「非正規の格差是正を求める裁判の最高裁判決を受けて」の学習会がありました。1時間という短い時間でしたが、非正規労働者の格差是正を求める三つの裁判に対して、10月に最高裁から出された判決について、メトロコマース事件を中心に、大阪医科薬科医大事件、日本郵便事件も含めて、理解を深めるこ

とができました。

その中でも「非正規労働者は勝っている」という言葉が印象に残りました。それぞれの方針にすれば納得がいかない部分も多い判決だとは思いますが、一部とは言い、無期雇用労働者と有期労働者の労働条件に不公平があると認定されたインパクトは大きいということでした。

午後からの春闘討論集会は、舟橋初恵女性部長のパワポイントを使った主催者あいさつで始まりました。来賓として日本共産党から紙智子参議院議員が駆け付けたほか、全労連初の女性議長となった小畑雅子さんが「単産・地方組織の意思決定の場に女性の参画を」と力強く語りました。

討論では、8単産・10地方組織・18名が発言しました。宮城からは、11月29日の第27回定期大会の様子、「ドレイ工場」上映会、宮城はたらく女性のつどいや国際女性デー宮城県集会へ

のとりくみ状況、女川原発再稼働や3病院統合問題について話しました。

大西玲子女性部事務局長はまとめの答弁で、「元気に交流している状況が報告され、心強く感じた。コロナの中での職場の実態を話し合えるいい機会になった。女性部の語り合いは具体的に、参加者が共感を持てる。女性部運動が労働運動を広げていくと感じた。Zoomで機関会議に女性が参加しやすくなっている。積極的に参加しよう。1月の全労連の評議員会に女性が3割参加し、発言してほしい。」と述べました。

残念だったのは、続いて開催された第32回女性部委員会でも、大西事務局長の退任が発表されたことでした。北海道にいらつしやるお母様の介護のためとのこと。でも、大西さんのことです。生まれ故郷に戻って、また活躍されることでしょう。

(女性部長)

永田 淳子 国公)

県労連女性部役員

【女性部長】

永田 淳子

(国公)

【副女性部長】

阿部 文子

(医労連)

【事務局次長】

高橋 京

(東北大学)

【事務局次長】

佐々木 政枝

(宮城一般)

【常任委員】

佐藤 祐子

(医労連)

川村 佳子

(医労連)

渥美 恵美

(宮城一般)

【県労連女性部担当】

武井 あおい

【会計監査】

黒澤 祐子

(年金者組合)

後藤 洋子

(東北大学職組)

21春闘討論集会

政治を労働者・国民の手に

軍事費を暮らしと命にまわせ

12月5日、フォレスト仙台にて宮城県春闘共闘会議主催の21春闘討論集会が行われました。加盟17団体、41名が参加し、春闘方針を決定し職場の現状を共有する貴重な機会になりました。

記念講演として前全労連議長で全労連顧問・小田川義和氏の「『安倍政治』の転換と労働組合の役割」と題した講演がありました。



記念講演を行う小田川義和氏

小田川氏は「安倍首相任期中に民間消費支出は減り格差と貧困が広がり、非正規職員が増え労働環境の劣化に拍車がかかっている。このコロナ危機で新自由主義の弊害や社会の脆弱性が明らかにになった。命を守る医療介護現場は悲鳴を上げている。菅政権に代わっても、このコロナ禍の実態にあわない政策で従来以上に自己責任の押し付けに終始し、国民に動揺をあたえている。国民は『安倍政治・新自由主義とは違う政治』を求めている。いまこそ『軍事費を暮らしと命にまわせ』の声を上げる時。2015年の安保法制強行採択のあと、市民が立ち上がり、野党を動かし野党共闘の形を作った。この胎動を

大切育て政治を労働者・国民の手に取り戻そう。社会正義を掲げ政治の仕組みの大本を変えていこう。遅くとも来年中に選挙はある。安保法制反対・憲法を守る立場を貫き立憲野党が一枚岩になることが重要だ」と語りました。(武井 あおい 県労連)

太平洋戦争開戦から79年目となる12月8日、「平和を守る母親・女性たちの全国連鎖行動」が全国で取り組まれました。

平和を守る母親・女性たちの全国連鎖行動 りれーとくで平和と核兵器廃絶を訴え

仙台市では錦町公園でミニ集会を開き、一番町商店街を行進後、平和ビル前でりれーとくや赤紙配布と署名行動を行いました。ミニ集会ではたくさんのタペストリーを掲げ、「青い空」等を歌い、りれーとくでは主催者を含め12名が政治への怒りと運動の報告、今後の決意を語りました。県労連の永田淳子女性部長は労働者の立場から「労働組合がなぜ平和運動にとりくむのか。『平和なくして平等なし』、戦争になれば立場の弱い者が切り捨てられるからである。医療労働者はコロナで今日のような活動にはとくめくない状況だが、これまで『再び白衣を血で汚さない』と平和運動にとりくんできた。国公労働者は、戦争になれば、例えば気象台が天気予報を出せなくなったり、国民の権利を制限するようなことをしなければならなくなる。そういう状況にしてはならない。」と訴えました。



明るく元気にピースウォーク

国際女性デー第61回宮城県集会

とき:3月8日(月)18:30~20:30

ところ:エル・パーク仙台セミナーホール

講師:浅倉むつ子さん

「ジェンダー平等の実現めざして
女性の権利を国際基準に！」

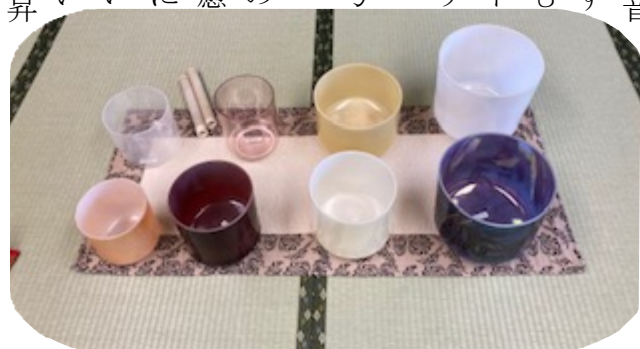
県内21カ所まで2000名が参加し、赤紙を5300枚配布しました。
(事務局長 高橋 京 東北大学)

第30回宮城はたらく女性のつどい

コロナ禍で傷ついた心と身体を癒してくれた
不思議な音色～クリスタルボウル

声も素敵で遠藤さんの話に聴き入りました

戸田祥子実行委員長(高等学校・障害児学校の現状を話したほか、医労連女性部からの医療現場の状況を角田秀子さん(JMI T U通信男組)が、東北大学生協のコロナ禍での食堂部のパートのたかいたについて佐々木政枝



不思議な音色を奏でるクリスタルボウル

2月6日、女性部が事務局となつて準備を進めてきた「第30回宮城はたらく女性のつどい」が仙台市福祉プラザにおいて開催されました。

一昨年11月に「第64回はたらく女性の中央集会」が仙台市内で開催されたことから、昨年は開催されず、今回2年ぶりの開催となりました。

「学習」と「癒し」を交互にテーマとしています。今回は「癒し」ということで、遠藤園子さん(クリスタルボウル演奏者・ホリスティックセラピスト)による



密を避けて参加人数を制限

「クリスタルボウルを聴くと眠くなる人多いということ、また、会場が和室だったこともあり、参加者は思い思いのリラックスした姿勢でその音色に浸りました。話をす

天、④原始のイメージが浮かんだ」と述べました。参加者からも「身体が軽くなった・温かくなった」「肩や膝の痛みが薄らいだ」「目がパッチリした」という感想が聞かれました。

コロナ禍で傷ついた心と身体を癒す貴重な時間となりました。

第30回宮城はたらく女性のつどい実行委員会事務局長 女性部長 永田 淳子 (国公)